

施政方針

知夫村議会 3月定例会より

知夫村長 伴佳
平木

豪雨災害の復旧工事

50年に一度といわれる豪雨が、昨年の7月から8月の2ヶ月の間に3回も襲来し、民家裏の土砂崩れや道路脇の崖崩れ・路肩崩壊をはじめ、河川の氾濫による床下浸水など多くの災害がもたらされ、村民の皆様方におかれましては、ご不安な日々を過ごされたことと思うところあります。

村と致しましては、被災当初から島根県をはじめとする関係機関と協議を重ね、早期の復旧が叶うよう努めて参ったところでございます。

復旧工事の進め方と致しましては、緊急性を要する個所から工事に着手することとしており、令和4年度中には国・県から指定を受けた災害個所の復旧を終了させるよう努めて参ります。

それ以外の被災個所や応急措置を実施した個所についても並行して工事を進め、なるべく早い段階での復旧を目指す所存であります。

それでは、令和4年度当初予算案における新型コロナウイルス感染症対策を実施した個所についても並行して工事を進め、なるべく早い段階での復旧を目指す所存であります。

畜産業の振興

畜産業においては、ふるさと農道や草地整備を中心とした基盤整備は基より、村有牛の貸付等に引き続き取り組み新規就農者の確保・支援にあたることとしております。

なお、「家畜市場建設について」でございますが、担当からの報告を聞く限りでは、まだ詳細について詰めなければならない点があるようですが、担当からの報告を聞く限りでは、まだ詳細について詰めなければならない点があるようです。

令和4年度当初予算案における「予算編成並びに事業方針」の考え方でございますが、村と致しましては、村民の皆様方が「安心して心と致しましては、村民の皆様方が「安心して心豊かに暮らせる島づくり」そして、次の世代へ「胸を張つてバトンを渡せる村づくり」の実現にむけて、産業、医療・福祉、教育、そして定住対策・インフラ整備等を推進し、知夫村の更なる活性化と島の自力をつける事を目指し、厳しい財政状況のなか編成したところでございます。

議員の皆様、村民の皆様方におかれましては、ご理解賜りますようお願いするところでございます。

それでは、令和4年度当初予算案における主要な施策の概略と考え方についてご説明させていただきます。

ざいますので、引き続き、JAしまね「隠岐どうぜん地区本部」をはじめとする関係機関と協議を重ね、本村に見合った家畜市場建設を目指す所存であります。

水産業につきましては、魚介類の輸送費コストに対する助成など漁業従事者の負担軽減をはじめ、有人国境離島特措法による交付金制度や離島漁業再生支援交付金を活用した漁業従事者自らによる水産業の振興を支援します。

令和3年度に完成した海産物加工施設でございますが、村内で水揚げされる魚介類を用いたブランド商品の開発・製造が徐々に進みつつあるようございます。

本年度は島外出荷による外貨獲得に向けた取組みを進めるとともに、島内での販売にも尽力する旨の報告を受けています。

また、現在、村内には、天然ワカメを出荷されている事業者をはじめ、蜂蜜やパンの製造・販売などに取組んでいる事業者がおられます。新たにアカモクという海藻を活用した新商品開発をを目指している方や海藻類をトップピングとしたご当地ラーメンの製造・販売に取り組んでいる

本村におきましては、現在、日本国内でオミクロン株が猛威を振るっているなか、第3回目のワクチン接種が早期に実施できた事と村民の皆様方の日頃からの感染予防に対する意識の高さのお蔭を持ちまして今のところ、一人の感染者も出ることもなく今日に至っているところでございます。

この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

しかしながら、オミクロン株は、感染力が強く、いつ感染者が発生してもおかしくないところであります。

村と致しましては、引き続き感染拡大が起



長尾水産加工場を現地視察

保健・医療・福祉の充実

昨年スタートした「ちぶり保育園」は、今のところ順調に稼働しており安堵しているところでございます。

知夫村の将来を支える大切なお子様をお預かりすることから、引き続き安全面への配慮を十分に図りながら、関係者・職員一同、力を合わせ村民の皆様方に愛される保育園となるよう精一杯運営に努めるつもりでございますのでよろしくお願ひ致します。

高齢者サービス、及び介護事業につきましては、招福苑や社協、役場が連携を取りながら、生活支援・介護予防サービス事業の充実を図って参ります。

また、懸案となつておりました本村の高齢者サービス、及び介護保険事業の拠点である「招福苑の施設改修」でございますが、施設の老朽化対策に併せて利用者の利便性向上や施設管理の効率化を図ることを目的に令和4年度、本格的に調査・設計をスタートさせ年次計画を立てて実施することと致しました。

なお、調査・設計の終了を待たずに出来る改修等については、年度中にも実施する予定ですので、ご承知おき頂ければと思うところでございます。

子育て世代への支援につきましては、国・県の

ますと、知夫村へ留学を希望される児童・生徒、ご父兄が年々増加している状況にあるようでございます。

村と致しましては、今後も留学生が安心して生活できる環境づくりに努め「はぐくみ寮」の安定運営を目指すとともに、この島留学制度が長く維持・継続できるような体制づくりと積極的な募集活動に努める所存であります。

ますと、「村内公共交通網の整備」でございます。昨年度、新たにスタートした村内巡回バス等の運行は、一般社団法人「ぐるり知夫里島」に運営委託し、大きな事故もなく今日に至っているところであります。

今後も利用される方々の足として更なる利便性の向上を目指すと共に安全運航に努める所存であります。

次に「道路等のインフラ整備について」でございます。

最初に、村道仁夫線の道路改良工事でございます。

工種変更に伴い工期が延長されているトンネル開削工事も間もなく作業を終了し、路面舗装等の次の工程に入ります。

正式に通行できるには、今しばらくお時間が



仁夫トンネル開削工事を現地視察

環境整備等

かかるようございます。

大変ご迷惑をおかけしておりますが、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

他にも、村道扇畑線改良工事、松養寺線改良工事、堤谷橋橋梁補修工事、簡易水道の老朽管布設替え工事などのインフラ整備と冒頭に申し上げました昨年度の豪雨災害で被災した各路線の復旧工事に取り組むこととしております。安全面等、十分に注意して工事を進めて参る所存でございます。

ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

財政運営の健全化

令和4年度も基金を取り崩しての予算編成にあたることを余儀なくされておりますが、令和3年度の当初予算繰入額から比較しますと約40%減の繰入額での予算編成となつております。

これは、本村の歳入の大半を占める地方交付税の増と村税等の增收が見込まれること、そして各種事業の見直しによる財政出動を抑えることが出来たことが主な要因であります。

しかしながら、中期財政計画上の数値からすると危機的状況が続いていることに変わりはございません。

また、経常収支比率が90%台であることから人件費や委託料、負担金、公債費など削減が難しい項目の総歳出額に占める割合は高く、今後も事業の緊急性・必要性を十分に見極めながら、地域活性化と住民福祉向上とのバランスを考えた上で、住民サービスに悪影響が及ばないよう財政健全化に努める所存であります。

以上、令和4年度当初予算案における主要な提出案件の基本的な考え方と概略について申し上げたところでございます。

子育て支援関係の交付金を活用して保育料を無償化とし、子育て世代の経済的負担軽減を目指すことと致しました。

併せて、子育て世代が安心して仕事に専念できるよう本年3月から知夫村図書館において、早い時間帯に下校する児童「いわゆる放課後児童」の見守り支援が出来ないか試験的に取組むこととしております。

私自身、児童たちが帰宅後に見守りのできる親族等が居なく、お困りのご家庭があることは承知しておりますので、なんとか本格的な放課後児童支援が執れないか、場所の選定をはじめ「需要の度合」や「配置人員数」、「必要経費」等を調査・検討しているところであります。

早急に実現可能かどうかについては、体制づくりがいつできるかによって決まりますので、今しばらくお時間を頂きたいと思います。

他にも、村民の皆様方が健康で生活して頂くためにはん検診など、各種健診事業についても引き続き継続してまいります。

この春で6年目を迎える島留学事業は、「600人の家族と暮らす島留学」をモットーに様々な問題や課題と向かい合いながら今日に至つているところでございます。

令和4年度の受け入れでございますが、新型コロナの影響を受けたことにより村内での体験・面接等が殆ど実施できませんでしたが、リモートによる面談や松江での面接等を重ね、新たに5名の留学生を受け入れ、継続される留学生1名と合わせて計6名の留学生を受け入れることとなりました。

教育の振興

担当している教育委員会からの報告により00人の家族と暮らす島留学事業は、「600人の家族と暮らす島留学」をモットーに様々な問題や課題と向かい合いながら今日に至つているところでございます。



招福苑を現地視察



招福苑を現地視察